

少しずつノーリフティング ケアが浸透する2年目

介護老人保健施設 翡翠苑

昨年の活動でうまくいかなかったこと

- ▶ リスクの芽があがってこない
- ▶ ノーリフティングケア技術が普及していない



(ノーリフティングケア技術テキスト
をみた職員は1割程度)

- ▶ リフトを使用できる職員が2割程度
- ▶ 腰痛が改善できていない

施設概要

入所定員100床 在宅復帰超強化型施設

平均介護度 2.93

介護職の概要

■ 年齢	平均44.21歳
■ 性別(男性：女性)	3：7
■ 経験年数	平均15.6年
■ 腰痛あり	86.5%
■ コルセットあり	12.1%
■ 鎮痛薬あり	18.3%

職員の困っていることに目を向ける

リスクマネジメント

昨年 リスクの芽ボックス → 今年 リスクの芽アンケート

ノーリフティングケア委員会

対象：全職員

リスクの芽アンケート

アンケート回収率：100%



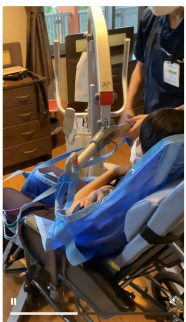
職員が危険・つらいと感じること

- ▶ 全105件
- ▶ 立位を伴う動作の介助(移乗動作、トイレ動作) 32
- ▶ 狭い空間での介助・作業 21
- ▶ 姿勢調整・横移動の抱え上げ 6
- ▶ 滑りそうな床での介助・作業 5
- ▶ 湿度・温度が高い場所での介助・作業 3
- ▶ しゃがみ込む介助・作業 3
- ▶ 介助抵抗・指示が通らない方の介助 3
- ▶ その他 32

▶ 寝返り→起き上がり→スライディングボード移乗



▶ リフト移乗



普及促進事業で習得した技術指導を紹介。

療養棟の全職員が動画を視聴

最も多かったトイレ・移乗動作介助を含めた技術指導の動画を作成

▶ 立位保持困難な方のトイレ介助



現状は前方から抱え上げながら立位保持を支えている。

介助者は便座に膝屈曲位で下腿を乗せ、利用者の後方から大腿部で利用者の臀部を支えて立位保持を支える介助方法を提案。

▶ プッシャー症候群が残存している方のトイレ介助



現状は麻痺側に傾く、プッシャー症候群に対して力づくで介助を行っているため、双方にとって苦痛となっている。

利用者に『肩を壁に近づけるように立ち上がってください』と意識するポイントを声掛けで促し、プッシャー症状を抑制する介助を紹介。

リフト使用のチェックリストの作成と活用



次第に、正しい使い方に慣れて普及につながった

項目	ポイント・留意点	7/13	7/14	7/15	7/16	7/17	7/18	7/19	7/20
安定した側臥位にしてスリングシートを敷きこむ	ベッド周囲の環境を確認して介護者が動きやすいスペースを確認 スリングシートを肩甲骨と臀部(尾骨)に入れこむ	○	○	○	○	○	○	○	○
仰臥位になり大腿部に通す。臀部の長さを確認する	左右ともに臀部の長さが同じである 臀部のスリングシートを左右クロスさせる	○	△	○	○	○	○	○	○
ハンガー位置に注意しながら、頭部から、ハンガーにストラップを掛ける	ハンガーが利用者の頭に当たらない位置(足の下部)での作業を行いハンガーから手を離さない 頭部→臀部の順でハンガーに掛ける	○	○	○	○	○	○	○	○
圧抜き	ストラップがハンガーに掛かっているかを確認する 大腿部後面と上肢(肩から肘)の圧抜きを行う	○	○	○	○	○	○	○	○
リフトを上昇させ、ストラップを握り臀部が浮いてから下肢からベッドの外に出す	顔をこすらない様に足をサポートして、ベッド面から出す	○	○	○	○	○	○	○	○
車椅子を傾け着座する	車椅子を吊り姿勢の角度に合わせる。 車椅子を傾けた状態で、臀部をバックサポートに沿わせながらおろし、前輪をゆっくり降ろす	○	○	○	○	○	○	○	○
着座後スリングシートをはずす	ハンガーからはずす際は、腰の前で行わない。またお尻の前から腰の前までスリングシートをはずす。 大腿部下の臀部を抜かると、その際、中腰で下肢を持ち上げるなどの不自然な姿勢で行わない 横に立ち介助者の腕で上半身を支えながら体重移動を使って前後させスリングシートを抜き取る	○	○	○	○	○	○	○	○



結果①

動画の視聴状況

療養棟のケアスタッフ・看護スタッフ全員が視聴し、現場で役立てている

リフトの普及状況

- 1人でリフトを使用できる介護職員の割合

20% ⇒ **83% (36人中32人)**

- 使用する頻度

以前	現在
夕食前	⇒ 朝食後(リハスタッフ) 昼食前・後(リハ・ケアスタッフ) 夕食前・後(ケアスタッフ)

まとめ・反省

- ▶ リスクの芽アンケートにて、業務で危険・つらいと感じることは105件あり、そのうち**32件が『立位を伴う動作の介助』**であった。
- ▶ ノーリフティングケアの基本技術と現場で困っている応用的な介助技術動画を作成し、**療養棟のケアスタッフ・看護職員全員が視聴した。**
- ▶ リフトを1人で使用できる介護職員が**83%**となり、使用する頻度が増えた
- ▶ 移乗時の**表皮剥離が減少(10件⇒3件)**している



- ▶ ノーリフティングケアが少しずつ普及してきているが、腰痛の軽減には至っていない。

結果②

移乗時の表皮剥離

令和5年度 10件

↑普及促進事業参加前

令和6年度 7件

↓普及促進事業参加

令和7年度 **3件** (現在進行中)

腰痛調査

① 腰痛の程度 変化なし：平均10.95点 ⇒ **9.75点**

(p-value0.057)

②コルセット・内服の有無 変化なし

今後の課題・目標

- ▶ 今回アプローチした『立位を伴う動作の介助』以外にも様々なリスクが上がったため、優先順位を決めてアプローチしていく。
- ▶ スライディングボードやリフトの使用は増加しているが、使用時に**不良姿勢になっている**ことが度々見受けられる。腰痛の軽減が図れていない要因と考えられる。今後は介助者の支持基底面や重心移動などの基本動作を見直し、腰痛の軽減に取り組む。